

幸福の赤いサクランボ



先日、テレビを見ていたら、「2016年はリオ五輪とTPP（環太平洋経済連携協定）発効の年になりますね」というコメントが流れてきた。

その時ふと、昨年11月末に知人夫婦が中国旅行のお土産と一緒に持ってきてくれた数枚の写真を思い出した。広州市のデパートで販売していたという南米チリ産のサクランボを撮影した写真だ。

改めて見直してみた。写っていたのは、大粒で赤い果皮のレーニアと黒い果皮のビングという品種

米国の栽培状況視察へ

と思われた。写真を見る限り、上等な品質で、表示された価格は500円当たり日本円で4千〜7千円。中国の富裕層向けの商品なのだろうが、上質のサクランボが、この価格で日本の市場に入ってきたら、相当な需要があるだろう。

農林水産省は現在8・5%のサクランボへの関税は、TPP発効後、段階的に引き下げられ、6年目に撤廃されると発表している。南半球のチリでサクランボが採れるのは秋から冬にかけてで、国内産と収穫・販売時期が重なることはないが、レーニアは米国が原産。太平洋側の米ワシントン州などで栽培されている。日本と時期が重なる米国産レーニアが大量に輸入されるようになると、日本へ



今シーズンの栽培に向けて社員の安食政史さん（右）と話し合う多田耕太郎さん（山辺町の多田農園）

多田耕太郎 1954年山辺町生まれ。金山町のスリッパ工場長を経て、41歳で就農。2009年に法人化し、2・1畝のサクランボ園を経営する。

の影響は少なくないと思われる。

今年の作業が一段落する10〜11月ごろ、米国ワシントン州などを訪れ、サクランボの栽培地や集出荷施設を見学しようと考えている。この視察では日本から米国へ輸出する可能性も探ってみたい。

私は就農してからこれまで、実際に現場に足を踏み入れて自分の目で確かめなければ、対策を考えることは出来ないと思ってきた。

米国に行くのは、すでに落葉している時期だが、木の姿や冬場の管理の仕方を見れば、どのようなサクランボができるか、把握することができると期待している。栽培者としての目で確かめてみたい。